

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170401044		
法人名	社会福祉法人 健友会		
事業所名	グループホーム みなみかぜ		
所在地	川越市吉田203-3		
自己評価作成日	令和3年7月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 埼玉県介護支援専門員協会
所在地	埼玉県さいたま市浦和区仲町2-13-8 ほまれ会館3階
訪問調査日	令和3年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特別養護老人ホーム『みなみかぜ』と同じ敷地内にグループホーム『みなみかぜ』があります。平成16年1月に開所し17年が経ちました。私たちは、介護保険事業における地域密着型サービスの一環として事業を行なっています。高齢者の方が同年代の皆さんと様々な事を語り合ったり、散歩に出かけたり、食事を共にするなど、自由な生活の中で認知症状を穏やかにし、楽しく笑って過ごせるよう支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームみなみかぜは、住宅地と田畑に囲まれた穏やかな環境にあり、広いベランダでは、家庭菜園や日光浴を楽しむことができる。そこから眺める田園風景は心が落ち着く場所となっている。特別養護老人ホームに併設されており、施設内には地域交流の場として地域交流センターを設置し地域のコミュニティとして開かれている。令和2年4月より3ユニットから2ユニットになったことで、より充実したケアが実践されており一人ひとりに寄り添った支援が行われている。新型コロナウイルス対策などの対応もしっかりとできており、入居しているご利用者様がコロナ禍でも安心して生活が送れるようにアイデアを出して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所も地域の一員と考えている。家族や地域社会との関係を継続できる暮らしを支援する。その事を目的として理念を作ってきた。全職員研修(資料配布)などで理念を共有している。	職員全員が理念に基づきご利用者一人一人を尊重しながら対応している。支援に迷いが生じた際には理念を振り返ることにより、行動の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地区の盆踊りに参加していた。年間を通じて施設の行事には地域の皆様が大勢来て下さっており、ボランティアや中学生の社会体験事業を受け入れていた。(新型コロナウイルス感染拡大予防の為、受け入れを中止している)	地元の自治会に加入しており、地域とのつながりを大切にしている。コロナ禍で地域との交流機会が減ってきているが、つながりを保っている。法人内にある地域包括支援センターと連携が取りやすく情報を共有している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの理解と医療・福祉の人材育成の役に立てればと実習生・ボランティア等を積極的に受け入れていた。(今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防の為、受け入れを中止している)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告等を含めた状況報告を書面にてご家族様へ郵送し、質問等があればお答えし、少しずつでもサービスの質の向上に努めている。(新型コロナウイルスの拡大防止の為、会議は中止とし、書面での郵送を行っている)	コロナ禍のため現在は、活動状況やヒヤリハット、身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会の内容等を、ご家族、民生委員、地域包括支援センター、自治会等に書面交付をしている。	コロナ禍ではあるが運営推進会議の工夫、市役所の職員への声掛けや書面を通じて情報提供を行うなどの取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員とは必要に応じて相談等を行っている。	市役所や地域包括支援センターに相談報告をしており良好な関係構築ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束についてインターネットを活用した勉強会を行った。また、日々の関わりを検証し、話し合いを持つように努めている。法人では拘束廃止委員会を会催している。	拘束廃止委員会を定期開催している。赤外線センサーの利用検討が行われ、使用している根拠が明確になっている。また身体拘束等に関する勉強会を定期的に開催しており職員全員が理解をしている。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターと連携を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、時間を掛け詳しく説明し同意を得るようにしている。契約解除については、本人の状況を家族等と相談しながら対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員や傾聴ボランティアを受け入れ、意見を伺っていた。家族とは、運営推進会議での懇談や個人面談を行っていた。また、投書箱を設置している。(今年度は新型コロナウイルスの為、受け入れ自粛した。運営推進会議は書面を郵送させて頂いた)	投書箱の設置やご利用者やご家族から意見を聞き取り、サービス向上委員会にてその内容を検討しフィードバックをして対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットにリーダーを置きユニット職員の意見などを把握しマネジメント会議で検討している。管理者も日頃から直接職員の意見を聴くよう努めている。	毎月行われている全体会議があり、そこで職員からの意見を聞き取り業務に反映をしている。管理者が施設内にいるように努め、職員からの意見を直接聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議での意見交換や面談の機会を設けている。法人でキャリアパスや人事考課を行っている。日頃よりコミュニケーションを取り、話しやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育研修委員会を設置し常勤職員、非常勤職員各自のレベルやニーズに合わせた内部研修・外部研修の機会を設けている。グループホームでも認知症の勉強会など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後の課題となっている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話等で家族の相談に応じ支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を把握できるよう、情報収集し家族や職員と話し合い、その方の思いを尊重したケアに努めている。	日頃から本人の会話や思いを把握するよう努めている。家族から情報を得ることもある。ケアチェック表なども使用しご利用者の思いや意向を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の誕生から入居されるまでの生活歴を把握して家族からもその都度、情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議など活用し、生活リズムや本人の現状、必要なケアを職員で共有しケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を聞いたり、家族の意向を聞いてケアプランを作成している。また、家族と電話で連絡を取り合うなどし、意向の確認を行っている。	包括的自立支援プログラムを使用し、ご利用者、ご家族の思いや意向を聞き取りケアプランに反映させている。期間にとらわれることなく現状に即したケアプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル表の他、個別記録・連絡ノートに記入しながら、申し送りを行い、情報共有している。またケアプランに活かしながらモニタリングする機会を増やしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な範囲で希望を取り入れ支援を行なっている。通院時の同行や臨時の往診対応など必要に応じて柔軟なサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや誇りを損ねない関わり方をするよう職員が意識して行う。会議、研修や勉強会等を通して意識向上を図っていく。	年1回の全職員へ向けた研修を実施している。また、日々の業務の中でご利用者の尊厳等が守られるよう職員へ個別に声かけを行い、さりげない言葉かけや配慮を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく本人の希望の表出や自己決定が行えるよう、安心できる声掛けや雰囲気大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間を中心とした、一日の流れにそって生活リズムを整えている。一人ひとりのペースを大切にするため職員同士の協力・共同を実践し、希望に沿えるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体で身だしなみが整えられるようさりげなく支援を心がけている。外出や行事の時はおしゃれを楽しんでもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キレイに盛り付けて食べる意欲が出るように心がけている。可能な限り食事の下膳を行って頂いている。個々の好き嫌い等にも配慮している。	メニューに応じた綺麗な盛り付けを行っている。ユニット内での炊飯やご利用者と職員と一緒に梅干を漬けたり生の果物を取り入れて季節感を感じていただいている。また、ご利用者の好きな食べ物の宅配を取り入れ楽しみのあるお食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食のセンターより栄養管理された食事が提供されている。それぞれの方に適した食形態や嗜好にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行うのが困難な方は声かけや一部介助にて行っている。必要な方は歯科往診を活用して頂いており、専門職の方よりアドバイスを頂き、ケアへと繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布持参されている方も数名居るが、自己管理が難しい。買い物楽しみや社会性をもって頂く為に機会を作りたいと思っているが、現在はご自身で払って購入する機会はほとんど無い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は全員の方に書いて頂いている。電話の希望は相手方の都合などに考慮しながら、外部との連絡がとれるようにしている。携帯電話を持たれている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひな祭り、クリスマス等の季節行事に合わせて室内の飾り付けや季節の食べ物を食したり、ゆず湯や菖蒲湯等 五感を刺激するような工夫もしている。日頃から懐かしい音楽をかけたりして ゆっくり過ごせるように配慮している。	食堂フロアにソファが置いてあり、仲の良い利用者同士でお話を楽しんだり馴染みの関係性づくりに活用されている。ユニット内にはご利用者が作成した作品や写真が飾られており利用者間で話の話題となっている。共有スペースでは穏やかな時間が流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、テレビや会話を楽しんで頂いている。またテーブル席では新聞や趣味を楽しんで頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を活かしてその人らしい生活が出来るよう工夫している。	入居時よりご家族と職員とで話し合いを行い、本人の馴染みの家具の持ち込み等を検討している。自宅と同じ環境を再現できるよう支援を行い安心して生活が送れるよう環境整備に努めている。固定電話や携帯電話の持ち込みも可能となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室等危険が高い箇所には、手すり等取り付けている。また居室やトイレ等分からなくなってしまう利用者にはわかりやすいように表示している。		